

『篠塚建次郎氏がヒストリックラリーに参戦』
スペインの大地を舞台に
伝説の男「篠塚建次郎」が蘇る



東大生たちと篠塚建次郎氏の新たなる挑戦

東京大学工学部の学生によって編成される「Team剛」。
東大生である彼らが挑戦する“海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト”に、
日本のラリーシーンを牽引した伝説の男『篠塚建次郎氏』の参戦が決定した。

往年の三菱ランサー1600GSR(A73)を駆り、
スペインの大地を疾走する「ラリーコスタブラバ」、レジェンドの新たなる活躍に期待したい。



MITSUBISHI LANCER 1600GSR (A73)

Drive@earth



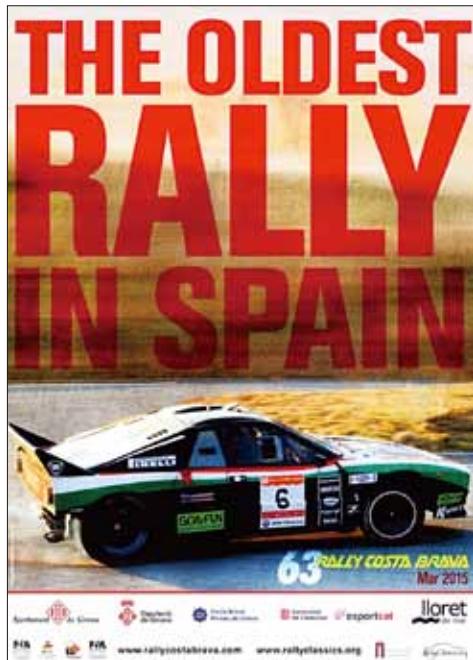
MITSUBISHI MOTORS

東京大学 海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト2015

TEAM剛×三菱ランサーGSR



篠塚建次郎氏がスペイン最古のラリー「ラリーコスタブラバ」に参戦する!



2015年3月13日～14日の2日間、スペインのジローナに於いて開催される「ラリーコスタブラバ」は、FIAトロフィー・ヒストリックレギュラリティラリーのスペインラウンド。ヨーロッパの格式あるヒストリックカーラリーはスペイン、イタリア、ギリシャ、ポルトガル、イギリスを転戦し、年間9戦にてチャンピオンシップを争うことになる。

その初戦となるラリーコスタブラバに、篠塚建次郎氏とチーム剛のメンバー日本のラリー界を牽引し続けた「篠塚建次郎氏」の参戦が決定した。1997年のパリ～ダカールラリーでの総合優勝を始め、数々のラリーフィールドで輝かしい成績を残す篠塚氏。そのルーツは三菱自動車にあり、1970年には三菱自動車の若きファクトリードライバーとしてラリーに参戦し、1976年のサファリラリー(WRC)では初代ランサー(A73)を駆って、日本人初となる総合6位入賞を果たしている。今回のラリーでは「三菱=篠塚建次郎」のイメージをそのままに、復活を遂げたレジェンドの華麗なる走りに期待したい。

ラリーへの熱き情熱が凝縮された初代ランサーGSR

今回のヒストリックラリーに挑戦するマシンは、1973年に三菱自動車から発売された初代ランサー1600GSR。A73型と呼ばれるランサーGSRは直列4気筒OHCユニットを搭載し、ツインキャブレターで武装することで100psの最高出力を發揮したのである。サファリラリーやサザンクロスラリーを制したことでも知られ、ラリーフィールドで培われた熱き情熱は近代のランサー・エボリューションシリーズへと受け継がれた。



東京大学工学部海外ヒストリックラリー参戦プロジェクトメンバーの手によって整備・改造・塗装された市販車のランサーGSR(A73)



SPECIFICATION

三菱ランサー1600GSR(A73)

- 全長×全幅×全高:3995×1535×1365mm
- ホイールベース:2340mm
- トレッド(前):1300mm (後):1270mm
- 車両重量:890kg
- エンジン:直列4気筒OHC
- 総排気量:1597cc
- 最大出力:100ps／6300rpm
- 最大トルク:13.5kgm／4000rpm
- トランスミッション:5MT
- ブレーキ(前):ディスク (後):リーディングトレーリング



RALLY COSTA BRAVA

篠塚建次郎 × TEAM剛

01

東京大学 海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト2015 東大工学部 × 篠塚建次郎

Kenjiro Shinozuka



篠塚氏と三菱ランサーGSR(A73)

学生が「篠塚建次郎」に白羽の矢を立てた理由

21名の東大生による「海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト」。20歳という若さを持つ彼たちがなぜ「篠塚建次郎氏」にドライバーとしてオファーをしたのだろうか？ 広報担当である金山玄クンにお話を聞いてみた。

「モータースポーツの専門誌やインターネットの情報によって、ボクたちが生まれる以前から篠塚さんが世界で活躍されていたことを知りました。過酷なラリーで頂点を極め、数々の経験を持つ『伝説のドライバー』は、ボクたちに手の届くことのない雲の上の存在と思っていたのですが、自分達が選んだベース車両、三菱ランサーでの参戦にあたり、どうしても篠塚さんにドライブをしていただきたいお願いをしたところ、快く引き受けて戴けました。世界を知り尽くした篠塚さんとの時間はボクたちにとって大きな経験になることは間違いません。篠塚さんと一緒に走ることで学生スタッフのモチベーションは最高潮に達しています！」



数多くの経験を積むことにより
学生たちの世界観は大きく育つ

【会】東大生たちによって運営される「海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト2015」も、今回の挑戦で5回目を数える。その挑戦する意図を顧問である草加浩平特任教授にお伺いしてみた。



草加浩平特任教授と
広報担当金山玄クン

「このプロジェクトは社会教育の一環として始まりました。企画書の制作から始まり、エントリー、ベース車両探し、ラリー仕様へのモディファイ、完成した車両を海外へと送り出す作業、スケジュール管理、メカニックとしての車両メンテナンスなど、プロジェクトに関わる全ての工程を学生自身が行っています。もちろん、海外ラリーへの参戦は簡単なことではありませんが、参加費捻出等の渉外活動を含め、その苦労を実際に体験することで学生たちは大きく成長していくのです。このプロジェクトへの参加は1年限りとなり、同じ学生が翌年のプロジェクトに係わることはできません。本来なら前年の経験やデータを引き継ぐことで、ラリーへの参戦はスムーズに運びますが、それでは『経験を積む』ことにはならないのです。社会教育の一環として、学生たちが海外ラリーを通じてグローバルな視点を持ってくれることがこのプロジェクトの狙いなのです。もちろん、ラリーに出場するからには優勝を目指しますが、それはあくまでも『目標』であって『目的』ではありません」

篠塚建次郎 (Shinozuka Kenjiro)

ラリードライバー 1948年11月20日生 東京都出身

1967年、大学在学中であった18歳からラリーを始め、1970年には三菱自動車のファクトリードライバーとなる。国内では圧倒的な強さを見せ、1975年には海外ラリーに参戦。1991、92年にWRCアイボリーコーストラリー2連覇。1997年にパリ～ダカールラリー総合優勝など、輝かしい功績を残している。2002年、ダカールに小学校(マム アラッサン ライ ド ヨップ)を設立するなど、数多くの社会貢献を果たしている。現在は全国各地でドライビングスクールを開催すると共に、講演会活動やモータースポーツの普及活動を展開。



【篠塚建次郎 オフィシャルサイト】

<http://www.shinoken.net/index.htm>

1997年 サザンクロスラリー篠塚車



RALLY COSTA BRAVA
篠塚建次郎 × TEAM剛

02

東京大学 海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト2015 FIA TOROPHY FOR HISTRIC REGULARITY RALLIES RALLY COSTA BRAVA

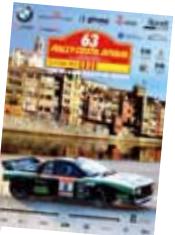
ラリー

コスタ

ブラバ



結果報告は4月上旬、三菱自動車販売会社のショールーム店頭で!!



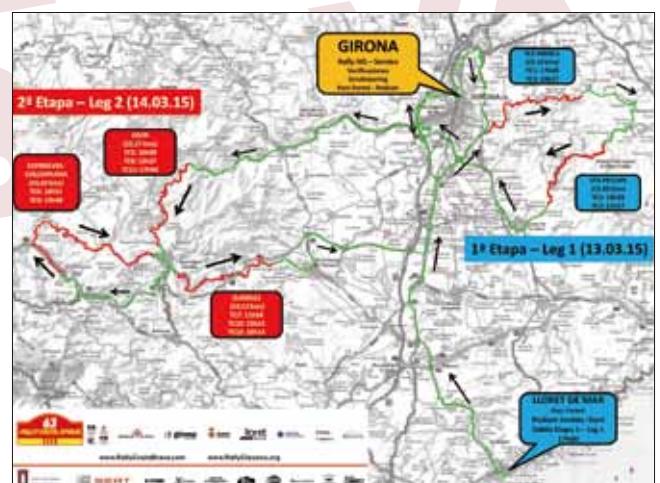
過去の大会でのスタートの様子

スペインの古道を 駆け抜ける初代ランサーGSRへの期待

今回、東京大学「チーム剛」と篠塚建次郎氏が駆るラリーマシンは、1974年のサファリラリーで優勝を果たした初代ランサーGSRと同型のモデル。レギュラリティラリーとして平均速度50km/hクラスに出場する。このクラスは年代、排気量に関係なく最終成績によって順位が決定することもあり、マシンを壊さないことで知られる篠塚氏のドライビングがあれば、往年の名車として人気の高いポルシェやランチアを相手に優勝することも夢ではない。レースは3月14日のレグ1、3月15日のレグ2と、総走行距離570kmのターマック路(舗装路)で争われる。東大生と篠塚建次郎氏のタッグは、どんな化学反応を見せてくれるのだろうか？私たちに大きな夢を与えてくれる「東京大学 海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト」を、ぜひとも応援して欲しい。

ドライビングテクニックと
コ・ドライバーの正確性が求められる

「東京大学 海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト2015」として挑戦する伝統のヒストリックラリー選手権「コスタブラバ」。その中でチーム剛は「レギュラリティラリー」と呼ばれるカテゴリーにエントリーしている。レギュレーションは規定のコースに設置されたチェックポイントを規定の時間、規定の速度で走行するタイムレース方式となり、的確なドライビングテクニックと時間をコントロールするコ・ドライバーの正確性が要求される。規定時間と実際の走行タイムのズレが点数となるため、単に早い時間で走り抜けるだけではポディウムの頂点に上ることはできない難しさがある。1953年から始まり、今回のレースで63回を数えるスペイン最古のラリー「コスタブラバ」。例年100台を越える往年のヒストリックカーが参加し、ジローナ(カタルーニャ地方の東海岸)の美しい街並みを走り抜ける。



RALLY COSTA BRAVA
東京大学 海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト2015
篠塚建次郎 × TEAM剛

03